第31回豊橋市小中高特連携教育推進協議会議事要録

令和4年6月1日　開　催

豊　橋　市　教　育　委　員　会

第 31 回　豊橋市小中高特連携教育推進協議会	
日時	令和 4 年 6 月 1 日（水）午後 2 時 00 分～午後 3 時 00 分
場所	豊橋市男女共同参画センター
出席者 **敬称略**	教育長　山西正泰 教育委員　渡辺嘉郎　内浦有美　中島美奈子　西島豊 高等学校等校長　藤城義光（豊橋西）　白井由美子（豊橋商業） 衛藤真有（豊橋聾）　彦坂充俊（豊橋特別支援） 山田淳子（くすのき特別支援）　満田康一（桜丘中） 高倉嘉男（豊橋中央） 小中校長会　市川徹（東田小）　岡本雄二（二川中） 小松正人（栄小）　大塚雅史（福岡小） 代理出席　武藤利昌（時習館教頭）　服部哲也（豊橋東教頭） 田中昌二（高根小校長） 事務局指定委員　種井直樹（教育部長） ※欠席者： 森島日出夫（時習館校長）　丸﨑恵子（豊丘校長）　山脇正成（豊橋南校長） 加藤一史（豊橋工科校長）　本多芳隆（豊橋高校長）　横山貴美（桜丘高校長） 山崎宏人（藤ノ花女子校長）　鈴木宏卓（五並中校長）
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ	河合厚志（東三河教育事務所指導課長）　松岡史憲（東三河教育事務所主査） 近藤智彦（田原市教育委員会学校教育課長）　小田敦子（豊川市教育委員会指導主事） 戸田由美子（新城市教育委員会指導主事）
事務局	浅倉淳志（教育政策課長）　中村三木也（学校教育課長）　他 7 名

次　第

1　教育長あいさつ
2　副会長紹介
3　昨年度の活動報告と今年度の活動の方向性について
4　東三河小中高特連携教育推進協議会について
5　連絡事項（事務局）

議事録

（渡辺会長）

本日は、ご多用の中、ご出席をいただきありがとうございます。

定刻になりましたので、ただ今から、「豊橋市小中高特連携教育推進協議会」を開催いたします。私は、本協議会の会長を務めさせていただきます、教育委員の渡辺でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、今年度から、豊橋市内の私立学校 4 校が協議会の「委員」となり、本日は 2 校の校長先生がご参加いただいております。後ほど代表校からご挨拶をいただきますので、よろしくお願いいたします。また、本協議会に初めて参加する委員の方や代理出席の方もおられますが、お手元の資料をもって紹介に代えさせていただきます。よろしくお願いします。

それでは、次第にしたがって、協議会を進めてまいります。はじめに、「１、教育長あいさつ」豊橋市教育委員会　山西教育長より、ご挨拶いただきます。

（山西教育長）

本日は 3 年ぶりの協議会です。新しく委員となられた方もお見えですので、改めて本協議会について紹介をさせていただきます。レジュメ 5 ページをご覧ください。

本協議会は平成 20 年度に発足しました。できた経緯としては、まず豊橋市の総合計画というものがあり、それをもとに教育委員会が教育振興基本計画を策定しています。その基本計画では、18 歳までの子どもの育ちを基軸として、政策を施しています。しかし、どうしても義務教育を卒業したところで、そのつながりが途切れてしまうという溝が存在していました。それは、義務教育である小中学校と高等学校等では設置者が違うので、ある意味仕方のないことでしたが、この溝を埋めたいという思いで、平成 21 年度に 4 つの分科会で本会が発足しました。

当初のメンバーは、教育委員長が会長、小中の校長会長と高校の代表校長が副会長となり、各分科会 10 名程度の委員でした。平成 26 年度に「教員の相互交流」分科会を閉じて、「情報教育」分科会を立ち上げました。平成 28 年度からは「情報教育」分科会を閉じて分科会が 3 つになりました。その後、今の時代に合った分科会として「言語活動」分科会を立ち上げ、豊橋南高校が主担当を担っています。さらに、平成 29 年度には協議会の名称を「小中高」から「小中高特」として、特別支援教育の先生方も参加していることがわかる形としました。そして今年度からは、市内の私立学校も協議会委員として参加しております。

また、本会にはオブザーバーとして東三河教育事務所に参加していただいております。県内の 5 つの教育事務所の中で、東三河だけ小中高特連携教育を予算化しており、本協議会と東三河の協議会、2 つの協議会で子どもたちの育ちを支援していることになります。資料 5 ページにあるように、今後も「関係校同士の情報共有」、「教員の相互交流」、「調査研究を各分科会で推進していくこと」で、本会の目的「教育活動の連携と系列化を図り、子どもたちの生きる力を育成」することにつながると思っていますので、どうかご忌憚のない意見をいただきたいと思っております。本日は、よろしくお願いいたします

（渡辺会長）
　続きまして、次第「２、本会の副会長紹介」をします。副会長は、本会の規約「第５条第３号」により、私から指名させていただきました。時習館高等学校長の森島委員と東田小学校長の市川委員にお願いしたいと思います。また、会長の職務代理者については、本会の規約第５条第７号により、副会長の中から、私が指名をさせていただくことになっていますので、森島委員にお願いをします。
　それでは、代表して市川委員に一言ご挨拶をいただきます。

（市川委員）
　各学校がコロナ禍での教育活動で、様々な工夫をしています。私は「何のための教育活動か」という視点を大切にしたいと考えています。本会の規約には、目的「子どもたちの生きる力を育成する」、手段「各学校における教育活動の連携と系統化をはかる」が書かれています。本会が様々な活動をしていく時に、この目的を忘れずにいきたいと思っています。本日はよろしくお願いいたします。

（渡辺会長）
　ここで、先ほど紹介しました私立学校の中から、代表で、豊橋中央高等学校長の高倉委員から、一言ご挨拶をいただきます。

（高倉委員）
　我々私立学校は、昨年度まではオブザーバーとして、今年度からは正会員として参加させていただきます。私立学校としてできることを考え、協力していく次第ですので、よろしくお願いいたします。

（渡辺会長）
　続きまして、次第「３、昨年度の活動報告と今年度の活動の方向性について」を進めてまいります。進め方ですが、（１）から（５）まで、それぞれで「提案」と「協議」を行います。そこで言えなかったご意見は、（６）の「全体を通した意見交換」で言っていただいても結構です。発言の際は、係の者がマイクを持っていきますので、マイクを通して発言してくださるよう、よろしくお願いします。
　はじめに「協議会全体にかかわること」について、事務局から説明をしていただきます。

（天野指導主事）
　この後、各分科会から報告等がありますが、全体にかかわる動きとして１点お話させていただきます。6 ページをご覧ください。これはすでに 5 月 19 日に発出している文書でありますが、豊橋市立の小中学校の各教科等研究部が行う授業研究会を高等学校にも案内するもので、平成 30 年度から行っています。ここ 2 年は新型コロナウイルスの影響で中止や縮小開催の授業研究会が多く、高等学校への案内自体ができない状況でしたが、今年度は感染対策をとりながら、積極的にご案内させていただく予定です。7 ページに授業研究会の一覧表が載せてあります。募集方法は、各研究部から上がってきた実施計画をもとに私が開催通知を作成し、各高等学校等と近隣の各市教委にご案内します。6 月の授業研究会など、まだ人数制限を

かける研究部もあり、高等学校等への案内ができない場合もありますが、基本的には積極的にご案内していきますので、今後、2学期の授業研究会にはぜひご参加いただけるとありがたいです。この取り組みによって、小中高特の縦のつながりが強力になっていくことを期待しております。

（渡辺会長）
続きまして、各分科会の委員長から、昨年度の活動と今年度の方向性等についてお話をいただきたいと思います。各分科会、「提案」と「協議」合わせて10分弱しか時間が取れませんが、有意義な時間になればと思います。
最初に、英語教育分科会です。委員長代理として、事務局の学校教育課宮本指導主事からご報告をいただきます。

（宮本指導主事）
8ページをご覧ください。令和3年度は2つの取り組み目標に従って1～5回の分科会を計画しましたが、新型コロナウイルスの影響で第3回が中止となり、合計4回の開催でした。主な成果を述べます。
１つ目は、豊橋南高校における愛知スーパーイングリッシュハブスクール事業の地区別授業参観です。この時の情報交換で、小中高の英語教育の現状を報告したり、協議会や指導助言の中で高校や大学の英語教育の課題について知ることができたりして、大変有意義な会となりました。また、小中の授業参観は実施できませんでしたが、授業案を共有したり、英語部報の中で授業の様子を共有したりすることができました。
2つ目は、英語部報を使って、小中で情報を共有するだけでなく、高等学校にも小中の英語教育の現状を提供しました。また、小3から高3までの学年到達目標である「CAN DOリスト」を各学校から集め、それぞれの学年の終了段階で何ができればよいか共通の素案を考えることができました。まだ検討の余地があるため、今年度はこれを活用しながら修正し、よりよいものにしていきたいと考えています。
課題として、異校種の授業参観は大変重要であるので、今年は感染対策をとって実施して、協議を通して小中高特の連携を図っていきたいです。また、新学習指導要領で、英語教育に大きな変革の波が押し寄せます。コロナ対策と英語活動を両立させながら、新指導要領に合わせた実践をしていきたいと考えています。
9ページには今年度の目標や活動計画が示してあります。今年度も、小中高の授業参観を中心に、5回の活動を考えています。また、情報発信として、今年も英語部報の活用を心がけていきたいです。さらには、昨年度作成した「CAN DOリスト」を実践しながらよりよいものにしていきたいと思います。

（渡辺会長）
英語部報とは具体的にどんなものですか。

（宮本指導主事）
小中学校の英語教育の取り組みや所管委員会の活動などを掲載したものを発行し、年4回小中学校の先生方にお配りして、この分科会を通して高等学校の先生にもお配りしています。

（渡辺会長）
　昨年度は授業研究会が中止になっていましたが、今後は、オンラインを活用してウィズコロナの新しい授業研究会を模索してほしいと思います。

（宮本指導主事）
　令和 3 年度後半からオンライン授業に取り組んでいます。今年度は、授業研究会等でもオンラインを活用するようにしていきたいです。

（渡辺会長）
　小学校でも英語教育が入ってきて数年経ったが、高校生の英語に対する姿勢等で変化したことがありますか。

（藤城委員）
　「話す・聞く力」は全体として高まっているように感じます。一方で、「書く力」は、生徒によって差が大きく開いているように感じます。新学習指導要領では 3 観点による評価となったが、評価方法や観点ごとの比率等について、大変さを感じながら取り組んでいます。

（高倉委員）
　八町小学校イマージョン教育コースの卒業後の進路について教えてください。

（宮本指導主事）
　八町小学校から進学していく豊城中学校でイマージョン教育を行う予定は、今のところありません。ただ、豊城中学校では、本年度からコミュニケーション能力を高める英語教育について模索しながら実践しています。

（渡辺会長）
　他に、ご意見・ご質問がなければ、「理科学教育分科会」に移ります。委員長代理として、副委員長の高根小学校長田中校長からご報告をいただきます。

（田中校長）
　理科学教育分科会についてお話をさせていただきます。10 ページの活動報告書をご覧ください。
　令和 3 年度の取り組み目標は小中高の連携を深めることはもちろん、小中高の指導の系統化、教員の資質向上に重点を置いて活動に取り組みました。活動状況としては、コロナウイルス感染拡大のため、主な活動は第 2 回の理科実験講習会と第 4 回の高等学校の授業公開への企画・参加で、中学校授業研究会への参加は見合わせ、総括もデータのやり取りとなりました。委員がそろう回数は少なかったですが、委員がそろった会合、協議の中では、小中高それぞれの立場で現状を発信しあい、現場での悩みや方向性を話し合うことができました。
　実験講習会については、物理、地学、生物分野の内容を時習館、豊丘，工科高校の先生方

を講師として小中学校の先生方に実験室で実践をしていただきました。物理、地学、生物、それぞれの得意分野の専門的な見方で指導法について研修することができました。この実験講習会は、系統的な指導のノウハウが蓄積できることが考えられるため、小学校の教員向けの内容とともに中学校の教員が参加したくなる内容を検討したいと考えています。

中学校の授業研究会への参加はできませんでしたが、分科会委員に資料を配付し見てもらうことで高校の理科教員が中学の授業について興味をもち、新学習指導要領が実施される高校の評価方法についても、後日の会合で情報交換をすることができました。

豊丘高校の生活文化科の授業公開では、ICT 機器一人 1 台のタブレットで、ロイロノートを利用し意見を集約したり、広げたりする授業を参観しました。昨年度は分科会委員のみの参加でしたが、系統性を意識した授業の見方で話し合うことのできた貴重な機会となりました。教員の資質向上のため、講習会や研究会参加に参加し意見交換をすることはとても有意義であるため、本年度も継続して計画していこうと考えています。

続いて 11 ページの活動予定をご覧ください。

本年度も取り組み目標としては、昨年度同様に 3 つの項目を掲げ取り組みたいと考えています。特に実験講習会、小中学校の授業研究会参加、高校の授業公開などの活動を通して、情報交換をしながら、異校種の学習内容や指導方法について話し合い、指導の系統化を図ります。また、理科教材の開発について中学校と高校が相談できる体制づくりに取り組みたいと考えています。本年度は、実験講座は時習館高校で実施、鷹丘小学校の授業研究会への参加、工科高校の授業公開への参加を予定しています。分科会委員と小中学校理科研究部や市内小中学校理科指導員らと連絡を取り、活動の輪を広げる計画や理科研究部だよりの発行による発信などの計画をしています。

小中高の教員が、教材開発や授業研究での交流が図られるよう活動していく予定です。

（渡辺会長）

ありがとうございます。本年度は、オンライン等を使いながら授業研究会を充実させてほしいと思います。何かご質問・ご意見等はございませんか。

（小松委員）

本校では、理科専門の教諭を中心に、4 年生で「理科の学びと生活を結びつける」学習を展開しています。理科の教材開発でも、「学びと生活を結びつける」という視点で取り組んでいただけるとありがたいです。

（田中校長）

教材開発では、小中学校と高等学校のつながりを大切にしています。「学びと生活を結びつける」視点での教材開発にも積極的に取り組んでいきます。

（渡辺会長）

他に、ご意見・ご質問がなければ、「特別支援教育分科会」に移ります。委員長のくすのき特別支援学校長、山田委員からご報告をいただきます。

（山田委員）

令和３年度の取り組みとして、大きく２つあります。１つは、豊橋版の「個別の教育支援計画」の改訂、もう１つは、特別な支援を必要とする園児の情報の引継ぎについて「園児の個別の教育支援計画」、通称「すくすくシート」を作成し、モデル園での活用をお願いしました。分科会のメンバーを２つに分けて、活動を進めました。

成果としては、１つ目の「個別の教育支援計画」の改訂については、委員からの意見をもとに、小改訂を行うことができました。２つ目は、複数のモデル園で「すくすくシート」の試行をお願いし、取り組みの現状や課題等について意見を集約することができました。

今年度は、「個別の教育支援計画」の改訂を終え、各学校にお示ししたいと思います。また、「個別の教育支援計画」のみならず、「個別の指導計画」についても、作成の義務はありませんが、“特別な配慮が必要な児童生徒については必要”との意見が多く、豊橋版「個別の指導計画」を作成したいと思っています。既に先進的に作成している小学校がありますので、こちらを参考にさせていただきたいと思います。

「すくすくシート」については、モデル園での試行から、更なる拡大を考えています。ただ、もともと各園で園児ごとの情報シートを作成しているので、「すくすくシート」を作成することに疑問を感じる保育士さんがいる可能性があります。作成を依頼する前に、保育士さんへの周知や説明を行って理解を得ることが課題です。

また、異校種間の授業参観については９月 30 日の中部中学校、10 月 25 日の幸小学校の特別支援学級での授業研究会に参加させていただきたいと思います。

（渡辺会長）

ありがとうございます。「個別の支援計画」は、高等学校まで申し送られていくのですか。

（山田委員）

高等学校には特別支援学級がありませんが、通常学級にも個別の配慮が必要な生徒はいます。中学校側から進学した高等学校側へ「個別の支援計画」を送るケースもあります。中には、保護者や本人が「特別な目で見られたくない」、「配慮は不要だ」等の考えから、それをためらう事例があることが課題です。

（渡辺会長）

どの学校も本協議会の一員であるので、子どもたちのためにも小中高が連携して配慮ができるとよいと考えます。

（渡辺会長）

他に、ご意見・ご質問がなければ、言語能力分科会に移ります。委員長の福岡小学校長、大塚委員からご報告をいただきます。

（大塚委員）

令和３年度言語能力分科会では、前年度までの活動をふまえ、めざす子ども像を「情報を正しく理解し、自分の思いや考えをわかりやすく表現できる子」としました。その姿を実現するために、小中高特が連携して子どもたちの成長を支えていけるよう、指導の系統化を図ること、小中高の連携を意識した取り組みを推進すること、教師の資質向上を図ることの３

点を重点としました。

まず、小・中・高等学校における児童生徒の言語能力の実態をとらえ、言語能力育成の方策を検討するために、中学校での国語の授業研究会を９月に計画しました。しかし、この計画はコロナ対応のため参観を中止することとなりました。一方、言語能力育成のための方策として、「授業づくりの参考になる」または「授業で活用できる」、教師のてびきといえる「言語活動ブック」の作成に向けて構想を検討しました。成果として、小・中・高等学校の子どもたちの言語能力の実態について、委員の間で情報交換をしたことで、育てたい言語能力について明確になり、言語活動ブックの方向性を決めることができました。具体的には、情報収集、情報検討、情報の関係づけなど、発信に向けた思考のてだてを柱にするのではなく、相手意識や目的意識をはじめ、言葉づかいや話し方、話し手の意図のとらえ方など、日々の授業で必要となる、基本的な学習姿勢と思考の仕方を柱に言語活動ブックを作成すること、さらに、「話す・聞く」「書く」「読む」という場面で整理して掲載していくことを確認しました。

本年度は、昨年度の検討内容をふまえ、各教科で活用できる、汎用性のある「言語活動ブック」が作成できるよう検討を進めていく予定で、国語以外の授業を参観したうえで言語活動について考えていく計画をたてています。

（渡辺会長）

ありがとうございます。ネット社会の影響や、このコロナ禍で、直接的な会話やコミュニケーションが少なくなってきています。人間の脳の発達は、コミュニケーションによるものが大きいので、このような状況でも、会話したりコミュニケーションを図ったりすることを大切にしたいです。

最近の子どもたちの言語活動について、高等学校からのご意見はありませんか。

（武藤教頭）

本校でも他の高等学校等でも、発表やプレゼンテーションといった言語活動が行われています。繰り返し練習することで発表はうまくなりますが、発表の内容がわかっていないと質問に答えられません。スキルを表面的に鍛えても駄目で、中身を伴うことが大切です。小論文で、例えば「起承転結」「3 段落構成」などの書き方指導は“形”の指導であって、実際には、書く“内容”が重要だと考えます。中身がないと形だけになってしまいます。また、本校では SSH の発表を英語で行っていますが、英語で話すことが目標ではありません。まずは日本語で内容を十分に考えます。十分に考え、中身を吟味したら、それを英語でどう伝えるかということを考えます。発表方法については、英語がよいか日本語がよいか、それぞれ賛否があります。いずれにせよ、発表方法など“形”の部分ではなく、“中身”である「知識」、「論理的思考力」、「相手が納得いくように説明する力」などが伴うことが大切だと考えています。

（渡辺会長）

全体を通して何かご意見はございませんか。

（西島委員）
　イマージョン教育や個別の支援計画など、豊橋市の子どもへの支援体制は、特色があって好感がもてます。中でも英語教育の「CAN DO リスト」は、小中高特のそれぞれの「到達目標」がわかるのでとてもよいです。また、評価について、実技の評価が難しいという意見がありましたが、社会に出ると実技の力はとても大切です。ただ、ペーパーテストで評価できる力も大切で、すべてを総合的に考えて、「社会に出て活躍するのはこういう人間である」という「総合的な到達目標」があるとよいと思います。
　リアルとオンラインについて、これも総合的に全体を見渡して、「リアルでなければだめ」な部分はリアルで行い、「オンラインでよい」という部分はオンラインで行うとよいと思います。この総合的な取り組みが、結果として仕事の効率化につながります。それを小さなところで単独で行うのではなく、小中高特の連携で大きな視点で行うとよいと考えます。

（高倉委員）
　豊橋市は、外国籍も含めて、子ども達や保護者に対しての支援が充実しています。今後は支援するだけでなく、自立を促す方策も考えていく必要もあると感じています。
　タブレット端末が一人１台配られました。今後、子ども達が「どんなスキルをもって高校に上がってくるのか」を高校側が知っておくことも、小中高特の連携につながると思います。

（渡辺会長）
　続きまして、次第の「４、東三河小中高特連携教育推進協議会について」、東三河教育事務所指導課長よりご説明をお願いします。

（河合指導課長）
　東三河の小中高特連携教育として令和３年度に実施したことを紹介します。
　具体事業①「ほの国」未来セッションとして、東三河の高校の学科紹介や東三河の高校を卒業して地元で活躍している社会人へのインタビューを発信しました。また、新たに質問 BOX を加え、中学生からの学科に関する 97 の質問に対して、高校生が回答し、開催期間中に寄せられた質問に対しても更新しました。11 月から 3 か月間、ホームページに掲載したところ、31,150 件のアクセスがありました。各学校の進路指導やキャリア教育にも寄与することができたと感じています。
　具体事業②「小中高特人事交流連絡会」として、小中学校と特別支援学校間、中学校と県立高校間の教員交流を通して、互いの学校の特長や教師の営み、子どもたちの育ちを共有しています。また、交流経験のある教員を招き、交流の実際や学んだこと、元の校種に戻った時に生かせる財産についての話を聞くことで、交流の意義を広めていくこともできました。
　具体事業③として、専門学科を有する県立高校と特別支援学校で初任者研修を行いました。三谷水産高等学校と田口高等学校、豊橋聾学校にご協力をいただいて、キャリア教育と特別支援教育の具体を学ぶことができました。
　具体事業④として、中高一貫教育フォーラムをオンラインで開催しました。各地区の報告をもとに活動状況や課題を共有することができました。
　今後も、子ども、教員、学校、地域をつなげて、東三河の未来を担う人材を育てていきたい

と思っています。

（渡辺会長）
　ありがとうございます。ほの国未来セッションは、高校でも見ることができるのですか。

（河合指導課長）
　基本的には小中学校が対象でありますが、高等学校でも、校長が ID やパスワードなどを持っているので閲覧は可能であります。

（渡辺会長）
　高校生にもこういった取り組みを紹介してあげるとよいと考えます。
　他にご意見等がなければ、次第「５、連絡事項」に移ります。事務局、お願いします。

（天野指導主事）
　今後は、分科会ごとに取り組みを進めていきます。令和 5 年 2 月に市役所講堂でこのメンバーが集まり、1 年間の各分科会の取り組みについて協議します。
　この後は、各分科会に分かれて具体的な活動計画を練っていきます。分科会ごとに解散となりますのでお願いします。

（渡辺会長）
　以上をもちまして、「豊橋市小中高特連携教育推進協議会」を終了いたします。本日は、ありがとうございました。